

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

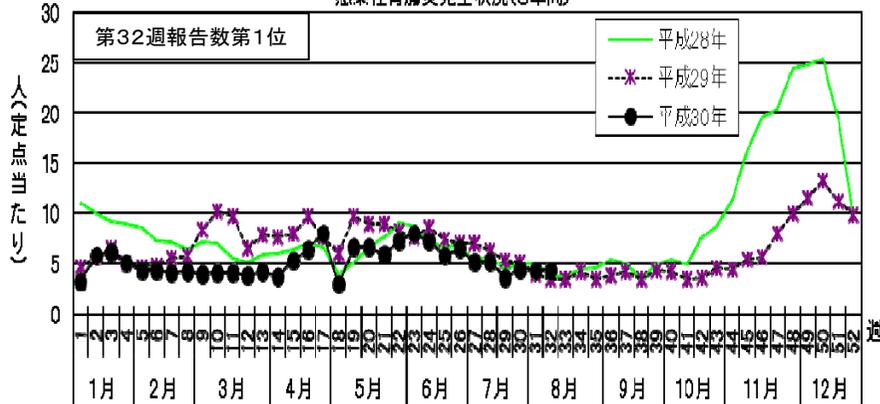
平成30年8月6日（月）～平成30年8月12日（日）〔平成30年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) ヘルパンギーナ 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.26人と前週（4.24人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は4.09人と前週（4.73人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.67人と前週（2.89人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

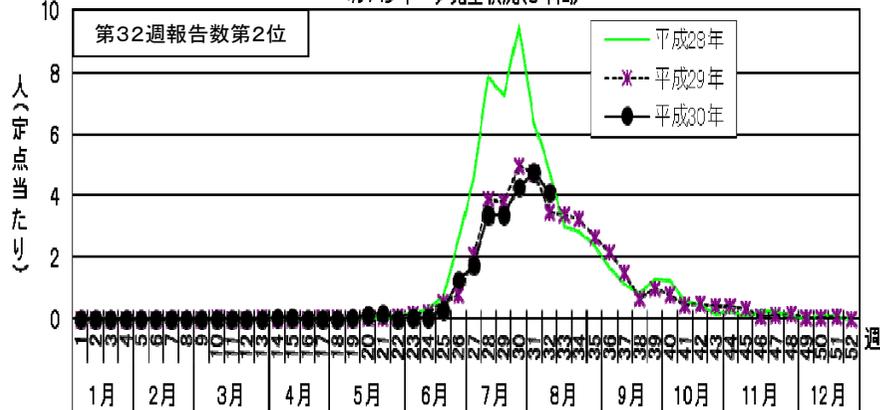
★大腸菌O157★
 イーコリくん



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



ヘルパンギーナ発生状況(3年間)



腸管出血性大腸菌感染症が急増しています！

腸管出血性大腸菌感染症（O157など）は毒素を産生する遺伝子を持つ大腸菌の感染によって起こり、腹痛、水様性下痢や血便を主症状とする感染症です。
 川崎市内では7月下旬以降、毎週1～2名の患者が発生しており、平成30年第32週（8月6日～8月12日）には届出数が5件にのぼりました。
 大腸菌が最も増殖する温度は37℃といわれており、今後も暑さが続くと感染のリスクが高まりますので、手洗いなどの予防対策を徹底するとともに、肉類は加熱（75℃で1分間以上）を十分に行うことで感染を防ぎましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

【感染経路】

- ・ 菌に汚染された食品などによる経口感染
- ・ 患者の便を介した二次感染

【潜伏期間】

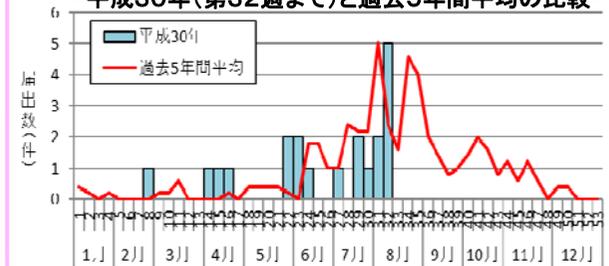
1～14日（平均3～5日）

【主な症状】

激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など
 ※無症状のこともあります。子どもや高齢者では、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症等の重症合併症を起こしやすいといわれています。
 激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。



川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
 -平成30年(第32週まで)と過去5年間平均の比較-



＜予防対策＞

- ・ 生肉または加熱不十分な肉を食べない。（加熱は75℃で1分間以上）
- ・ 肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
- ・ 生野菜などはよく洗う。
- ・ 食事の前、排便後などにはしっかり手を洗う。